

平成31年3月13日  
報道発表資料

担当課名 文化財課  
担当者名 佐伯(さえき)  
電話番号 0856-31-0623  
FAX 番号 0856-24-1380

## 益田市指定文化財の指定に関する答申について

標記のことについて、下記のとおり益田市指定文化財の指定に関する答申が行われますので、取材いただきますよう、ご案内申し上げます。

### 記

1. 日 時 平成31年3月22日(金)  
10:00~10:20
2. 会 場 益田市役所本庁2階 教育長室
3. 諮問内容 以下の仏像・神像8体は、益田市の歴史・文化を語る上で欠かせない貴重な資料であり、将来にわたり適切に保存するため、指定を図りたい。
  1. 医光寺 木造薬師如来坐像(医光寺本堂本尊)
  2. 医光寺 木造釈迦如来坐像
  3. 医光寺 木造薬師如来坐像(開山堂安置)
  4. 医光寺 木造弘法大師坐像
  5. 医光寺 木造伝龍門土源坐像
  6. 萬福寺 木造阿弥陀如来坐像
  7. 教西寺 木造阿弥陀如来立像
  8. 櫛代賀姫神社 僧形神坐像
4. 文化財の概要 別紙「指定事由書」のとおり
5. 指定までの予定 3月28日(木)9:30~ 益田市役所本庁3階 第一会議室  
定例教育委員会での議決  
※定例教育委員会での議決後、正式に市指定文化財となる見込みです。
6. 解禁日について 指定等の情報については、公平かつ中立な審議が行われるために、答申が得られるまでは、原則非公表として取り扱うこととしています。

## 指定事由書

### (1) 木造薬師如来坐像（本堂安置）

【よみがな】もくぞうやくしによらいざぞう

【種 別】有形文化財（彫刻）

【員 数】1 軀

【所 在 地】益田市染羽町 4-29

【所 有 者】宗教法人 医光寺

代表役員 家根原 宗丈

【年 代】南北朝時代（14 世紀後半）

【像 高】76.7cm

#### 【制作技法・現状】

寄木造りにより制作された仏像で、医光寺本尊として本堂に安置されている。左手一部、底部板柄は欠損。玉眼、白毫、肉髻珠、右手先、左手先、薬壺、漆箔、彩色は後補。

#### 【特 徴】

本像は端正な顔つきと装飾的な屈曲を多用する表現など出来栄は優れて良質であり、院派の中でも室町幕府に重用された院広のスタイルを受けついでいる。14 世紀後半の院派正統仏師の作例と考えられる。

#### 【指 定 事 由】

院派仏師の制作と考えられ、出来栄も良質であり、南北朝時代の仏像として優品である。また、院派仏師が官寺での造像等で中心的な役割を果たしていたことから、同寺開山堂安置の木造釈迦如来坐像同様に、室町時代に諸山に位置づけられていた医光寺の前身・崇観寺の遺宝の可能性もあり、歴史的価値も高い。



(2) 木造釈迦如来坐像

【よみがな】もくぞうしゃかによらいざぞう

【種 別】有形文化財（彫刻）

【員 数】1 軀

【所 在 地】益田市染羽町 4-29

【所 有 者】宗教法人 医光寺  
代表役員 家根原 宗丈

【年 代】応安四年（1371）

【像 高】70.7cm

【制作技法・現状】

寄木造りにより制作された仏像で、医光寺開山堂に安置されている。髻、宝冠、玉眼、右前膊部、裳先、胸部襠材は欠損。白毫、左眼部周辺、両手先、漆箔、彩色は後補。

【特 徴】

本像は像内の墨書銘から、当時の益田家惣領の益田兼見が大檀那として応安四年（1371）に崇観寺仏殿本尊として造立させたことが判明している。造形的に院派仏師の影響を受けた在地仏師による作例と考えられる。

【指 定 事 由】

墨書銘により、制作の年月日、崇観寺の本尊として制作されたこと、仏師、大檀那、大願主、当時の崇観寺の住持が判明し、医光寺が崇観寺の後身であることも傍証するなど、歴史的価値が非常に高い。また、院派仏師の影響を受けた地方仏師の作品と考えられ、年代の確実な南北朝時代の地方における造像の事例としても貴重である。



(3) 木造薬師如来坐像（開山堂安置）

【よみがな】もくぞうやくしによらいざぞう

【種 別】有形文化財（彫刻）

【員 数】1 軀

【所 在 地】益田市染羽町 4-29

【所 有 者】宗教法人 医光寺  
代表役員 家根原 宗丈

【年 代】南北朝時代（14 世紀後半）

【像 高】38.7cm

【制作技法・現状】

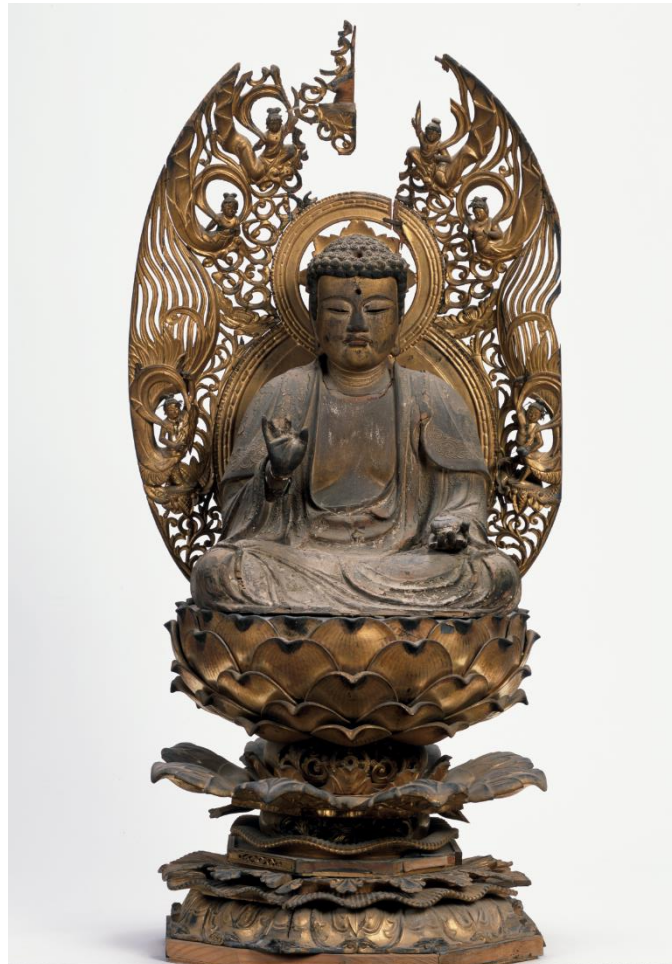
寄木造りにより制作された仏像で、医光寺開山堂に安置されている。玉眼、白毫、右手の一部、左手の一部、衲衣左襟部、裳先、底板については欠損。

【特 徴】

本像は中国四国地方に伝来する院什銘のある像との近似性が高く、14 世紀後半の院派正統仏師の作例と考えられる。像内の朱書銘から、かつては天石勝神社別当寺の真言宗寺院であった勝達寺に安置されていたものと推察される。

【指 定 事 由】

院派正統仏師・院什の作風を見せる作例は、島根県内では他に邑南町西蓮寺像のみであり、本像は貴重な作例である。また、像内の朱書銘から、染羽天石勝神社の別当寺で、現在は廃絶している真言宗勝達寺の遺宝であることが判明し、歴史的価値も高い。



#### (4) 木造弘法大師坐像

【よみがな】もくぞうこうぼうだいしごぞう

【種 別】有形文化財（彫刻）

【員 数】1 軀

【所 在 地】益田市染羽町 4-29

【所 有 者】宗教法人 医光寺  
代表役員 家根原 宗丈

【年 代】嘉暦二年（1327）

【像 高】50.4cm

#### 【制作技法・現状】

寄木造りにより制作された仏像で、医光寺開山堂に安置されている。玉眼、胸部の一部、五鈷杵、数珠、両手先、彩色は後補。

#### 【特 徴】

本像は弘法大師像の典型として知られる真如親王様の諸像と比べ顎の張る角ばった顔つきや体格の良さは踏襲されておらず、袈裟が左肩に掛からず左肘を巻くようにつけられている点などが特徴である。像内の銘から嘉暦二年（1327）に造立されたことがわかる。医光寺は臨済宗であることから本像は真言系寺院から移坐されたと考えられる。

#### 【指 定 事 由】

胎内銘から制作年月日が判明し、像容も他の弘法大師像とは異なる特徴を持つ。また、弘法大師像であることから、染羽天石勝神社の別当寺で、現在は廃絶している真言宗勝達寺の遺宝と推測され、歴史的価値も高い。



(5) 木造伝龍門士源坐像

【よみがな】もくぞうでんりゅうもんしげんざぞう

【種 別】有形文化財（彫刻）

【名称・員数】木造伝龍門士源坐像 1 軀

【所 在 地】益田市染羽町 4-29

【所 有 者】宗教法人 医光寺  
代表役員 家根原 宗丈

【年 代】室町時代（16 世紀）

【像 高】82.4cm

【制作技法・現状】

寄木造りにより制作された仏像で、医光寺開山堂に安置されている。持物は欠損、彩色曲象は後補。

【特 徴】

像主は崇観寺開山・龍門士源と伝わる。本像は戦乱により衰亡した崇観寺が、隣接する龍門士源の塔頭・医光寺を後身寺院として引き継がれ、益田宗兼を再開基として再興したとされる時期の作風を有し、この医光寺再興の時期に造立された作例と考えられる。

【指 定 事 由】

室町時代後期の僧像として、この地方の作例として貴重である。



(6) 木造阿弥陀如来坐像

【よみがな】もくぞうあみだによらいざぞう

【種 別】有形文化財（彫刻）

【員 数】1 軀

【所 在 地】益田市東町 25-33

【所 有 者】宗教法人 萬福寺  
代表役員 神一紀道

【年 代】平安時代（12 世紀）

【像 高】44.8cm

【制作技法・現状】

一材を割矧ぎして制作された仏像で萬福寺に安置されている。

【特 徴】

像全体を穏やかな造形にまとめあげ、温雅で気品のある作風をみせる。面長の顔つきや目がやや吊り上がる点から、制作時期は鎌倉時代に近い頃を感じさせるが、12 世紀に隆盛をみた定朝様と称される様式をよく踏襲した作例である。

【指 定 事 由】

仏師・定朝の確立した定朝様式の秀作として貴重である。また、万福寺末寺で、現在は廃寺となっている莊嚴寺（美都町）の遺宝とされ、この点でも貴重である。



(7) 木造阿弥陀如来立像

【よみがな】もくぞうあみだによらいりゅうぞう

【種 別】有形文化財（彫刻）

【員 数】1 軀

【所 在 地】益田市高津 1-40-18

【所 有 者】宗教法人 教西寺  
代表役員 宮内真也

【年 代】鎌倉時代（13 世紀中頃～後半）

【像 高】98.9cm

【制作技法・現状】

寄木造りにより制作された仏像で教西寺に安置されている。

【特 徴】

像高が 1m 弱の阿弥陀如来立像でいわゆる三尺阿弥陀と呼ばれているものである。理知的な顔つきで仏師快慶の様式（安阿弥陀様）の系譜に属する作例で、制作時期は 13 世紀中頃から後半の造立と考えられる。

【指 定 事 由】

益田市内に遺る鎌倉時代の指定された三尺阿弥陀は萬福寺阿弥陀如来立像（県指定）、暁音寺阿弥陀如来立像（県指定）の 3 軀しかなく、本像は数少ない安阿弥陀様の阿弥陀如来像であり、鎌倉時代中期にさかのぼる作例として貴重である。また、柿本神社神宮寺・真福寺の本尊と伝わり、この点でも貴重である。





(8) 僧形神坐像

【よみがな】 そうぎょうしんざぞう

【種 別】 有形文化財（彫刻）

【員 数】 1 軀

【所 在 地】 益田市久城町 963-1

【所 有 者】 宗教法人 櫛代賀姫神社  
代表役員 田中勝治

【年 代】 平安時代（11～12 世紀）

【像 高】 63.5cm

【制作技法・現状】

一木造りにより制作された僧形像で現在は島根県古代出雲歴史博物館に保管（寄託）されている。

【特 徴】

本像は造形表現が全体的に簡略で平安時代後期の神像に共通の特徴を有する。像高は神像彫刻にしては大きい部類に入り、制作年代は 11 世紀まで遡る可能性がある。

【指 定 事 由】

島根県内でも神像彫刻の古例はほとんど確認されておらず、その中で本像は代表的存在の好例である。式内社である櫛代賀姫神社の歴史を傍証する点でも貴重である。

